

北海道社会学会ニュース

H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒065-8567 北海道札幌市東区北16条東9丁目1-1

札幌大谷大学札幌大谷大学短期大学部 保育科 遠山研究室

Email : hsa.sociology@gmail.com

http://www.hsa-sociology.org/ 郵便振替口座 : 02760-3-3085

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

Kagehiro TOYAMA

Junior College of Sapporo Otani University,

Kita16 Higashi9 1-1, Higashi-ku, Sapporo, 065-8567 JAPAN

URL http://www.hsa-sociology.org/

編集責任者：遠山景広（庶務理事） 札幌大谷大学札幌大谷大学短期大学部 保育科 kagehiro_tooyama@sapporo-otani.ac.jp
〒065-8567 北海道札幌市東区北16条東9丁目1-1

会長就任のご挨拶

このたび、北海道社会学会の会長を拝命いたしました品川です。諸先輩方が築かれてきた本学会の歴史と重みを思いますと、微力な私はその責を担うことに恐縮しておりますが、理事の先生方と力を合わせ、本学会の維持と発展に尽力してまいりたいと存じます。

さて、この挨拶文を書いております2025年7月、北海道では記録的な猛暑が続きました。例年は比較的涼しい道東でも30度を超える気温が連日続き、かつては想像もしなかった暑さとなっています。気候変動の影響は確実に私たちの生活に迫っており、それにどう向き合うかという課題もまた社会学が取り組むべきテーマの一つに含まれるのではないかと考えておりました。

そのような中、7月20日に行われた参議院選挙では、与党が30年ぶりに過半数を下回り、政治的な大きな転換点となりました。今回の選挙ではいくつかの社会的争点が浮かび上がりましたが、私が気になったのは「外国人をめぐる問題」がその一つとなったことです。外国人をめぐる問題は、社会学では1990年代の初頭から注目され、本学会でも何度かテーマに取り上げられてきましたが、いよいよ全国的な関心事として表面化してきた印象があります。これは、特定の地域にとどまっていた問題が、より広い地域で現実の課題となってきたことの表れではないでしょうか。そしてこれらの課題に対して、社会学が果たすべき役割はますます大きくなっているのではと思うところです。

学会ではこうした現代社会の様々な課題を正面から取り上げ、世代や領域を越えた多様な立場の研究者や実践者が交流し、活発な議論が展開され刺激を受け合える場を提供できるよう努めて参りたいと思います。一方で、会員数の問題は本学会が直面する大きな課題です。学会の活動を維持・発展させるためには、より多くの方に参画していただくことが不

可欠です。社会学の知見は、研究者のみならず、教育、福祉、行政など、様々な領域で活用されており、そうした実践者の方々にも本学会に入会していただいています。会員の皆さまにおかれましては、ぜひお近くの大学院生や研究者、実務に携わるの方々にお声がけいただき、学会への参加を呼びかけていただければ幸いです。様々な問題を研究し実践する人々が出会い、議論し、学び合う場としての学会の意義を共に実感できることを願っています。北海道社会学会の発展のため、会員の皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

品川ひろみ

第73回北海道社会学会大会について

西浦功（研究活動委員長）

第73回北海道社会学会大会が2025年6月21日（土）、札幌大谷大学においてハイブリッドで開催されました。西脇裕之会員・理事（札幌大谷大学）を大会実行委員長として、今回も無事に終えることができました。本大会の参加者数は、会員45名、非会員3名の48名、そのうち3名がオンライン参加となり、昨年とほぼ同規模の参加数でした。

本大会では一般報告が10組と多くの会員の方にご報告いただくことができ、また昨年度同様に多様な研究領域に恵まれました。午前の第Ⅰ部会は福祉および若者研究に関する3組の報告があり、介護負担の回避意識、母子世帯所得の趨勢的変化、地元漁師町にあえてとどまる若者たちの生活文化等、生活現場の抱える課題に注目した報告が目立ちました。また午後の第Ⅱ部会では、中学校における学習規律設定の持つ意味や小学校児童の学校適応プロセス、権威主義的態度の規定要因等、教育および階層研究の視野に立った報告をいただきました。

また第Ⅱ部会と並行して開催された第Ⅲ部会では、櫻井義秀会員のグループが進めるウェルビーイング研究の近年の成果についてご報告いただきました。

65 歳から 74 歳までを社会活動・家族・自身の社会関係等を再編成する「サードエイジ期」と位置づけるのが研究の大きな特色であり、かれらの生活意識や社会活動にかんする質問紙調査分析、さらには日本の福祉除雪・香港の社会運動を通じたアクティブな高齢者に注目した事例研究を通じて、サードエイジ期高齢者の生活実態について多角的に考察・報告いただきました。このように今年も多様な研究報告に恵まれたなか、司会として各部会を盛り上げていただいた新田雅子会員（札幌学院大学）、野崎剛毅会員（札幌国際大学）、および金昌震会員（札幌大谷大学）に改めて御礼申し上げますとともに、機材の不調のため一部発表にお聞き苦しい点があった旨、会場校担当として深くお詫び申し上げます。今後同様のアクシデントが生じないよう、次期担当校と引継ぎ、対応させていただきます。

さて、大会シンポジウムは遠山景広会員（札幌大谷大学・札幌大谷短期大学）の司会で『社会の心』を掴む手掛かりを探る」と題して、二人のシンポジストに報告いただきました。前田忠彦氏（統計数理研究所／データサイエンス共同利用基盤施設）には「意識の変化を捉えるための継続社会調査の強みと困難」、清水香基会員（同志社大学）には「ライフコースが多様化する現代社会における『測定』との向き合い方」という題目で、人びとの意識を捉えることの意義、調査方法論上の困難、また今後の研究展望についてご報告いただきました。さらにコメンテーターとしてご登壇いただいた平沢和司会員（北海道大学）からは、社会意識調査を継続することの意義を強調いただく一方で、実質的な分析とも関連づけつつ方法論の議論を深めるべきでないかという問題提起をいただき、当該分野の今後の研究展望を開く、議論の深まるひとときとなりました。

今年度も 9 名の新入会員に恵まれる一方、北海道社会学会でも学会員の世代交代が静かに進んでおります。そうした中で学会総会では、若手会員の支援の幅を広げるため研究奨励金制度の変更をお認めいただきました。学会誌の投稿数も順調に増えつつある中で研究交流の場がさらに活発化するよう、研究活動委員会でも努力を重ねて参りますので、今後ともご理解とご協力の方よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、本大会の運営に関わっていただいた方々はじめ、参加されたすべての皆さまに、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

第 73 回大会シンポジウム

『社会の心』を掴む手掛かりを探る」に参加して
高島 裕美（名寄市立大学）

今大会のシンポジウムでは、吉川徹氏が提示した「社会の心」という概念を取り上げ、われわれ社会学者が、調査によって現代社会の姿をとらえようとする際に突き当たってしまう調査結果と現実とのず

れに向き合いつつ、現実を生き生きと描写するための方策を探ることを目的として、2 名の報告者による研究報告をもとに議論がおこなわれた。

まず前田忠彦氏（統計数理研究所／データサイエンス共同利用基盤施設）による第一報告「意識の変化をとらえるための継続社会調査の強みと困難—二つの大規模調査事例に基づく考察」では、報告者がこれまでかかわってきた 2 つの調査—統計数理研究所「日本人の国民性調査」と SSP プロジェクトによる「階層と社会意識に関する全国調査」の実施の目的や特徴を説明したのち、こうした継続調査の強みと現代的な困難について具体的な例を示しながら報告がおこなわれた。強みとして、同じ条件で調査を実施することで「社会意識」の変遷をとらえることができること、さらに、コーホート分析が可能になることが挙げられた。一方、困難さとして、調査実施条件の同一性は必ずしも担保できないことと、調査内容面の困難として「調査項目の陳腐化」が挙げられた。最後に報告者からは、『ことば』により定義される調査項目が『変わらない物差し』であり続けるための条件はなにか？そんなことが可能なのか？という重要な論点が提起された。

次に、清水香基会員（同志社大学）の第二報告「ライフコースが多様化する現代社会における『測定』との向き合い方」では、近年ますます増加する多様な背景を持つ人々の意識や行動のありようを従来の社会調査の手法で測定することの難しさや課題が提示されたのち、国際比較研究の領域における「測定の等価性／不変性」の議論を援用しそれらを整理した。測定の等価性には、一つには測定対象となる概念と外部変数との関連の仕方によって等価性を判断するものであり、もう一つには、構成概念の構造に注目した考え方である。こうした技法の発達は、不変な「ものさし」というものの存在の希少さを示すことにもなった。報告者は、こうした結論をふまえ、「不変さ」を突き詰めるのではなく、そもそも「等価な測定」というものの自体がある種のフィクションであることを自覚し、等価／不変な測定がある集団において成り立ち得るかどうかということについての知見が、社会調査においては重要であると主張する。

コメンテーターの平沢和司会員（北海道大学）は、前田報告に対して、調査を重ねることで明らかに年齢効果だとわかる設問の例を示したうえで、「調査項目の陳腐化」があったとしても、データが蓄積されることで「社会意識」の傾向を掴むことが可能となっているという強みは高く評価されるべきであり、調査を実施する側としては「実入りが減ってきた」という感覚が生じているかもしれないが、継続調査をおこなうことの重要性が強く主張された。また、清水報告に関しては、構成概念の妥当性について、それを絶えず検討することは重要だが、それは研究

の出発点であり、測定したあと、測定したものをいかに分析して実質的な姿に結実するかが問われているとの指摘があった。

フロアからは、調査結果の解釈についての意見や、日本に限らず世界の多くの国・地域における多様性のひろがりや分断は生じており、それゆえに「社会の心」といった典型的なモデルに合致しにくくなっているのではないかという指摘があった。また、ある調査項目がある特定の社会意識を測定できているか／それは妥当なものかという問いが常に必要であろうという意見が挙げられた。

最後に、報告者および討論者の皆様、ならびに座長の遠山景広会員（札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部）、企画を担当された研究活動委員長の西浦功会員に御礼申し上げます。

第73回北海道社会学会総会について

（第73回北海道社会学会総会議事録抄録）

日時：2025年6月21日（土）16:50~17:40

場所：札幌大谷大学

方法：対面とオンラインのハイブリッド開催

議長：小内透 会員

報告

1. 編集委員会報告（上山委員長）

- ・『現代社会学研究』38巻：自由投稿論文4、シンポ特集3、書評（含：リプライ）3
- ・今号から電子化のみに
- ・執筆要項の改訂（38巻から）
- ・『現代社会学研究』38巻のJ-Stage掲載は6/21公開を目途

2. 研究活動委員会報告（西浦委員長）

第73回の参加者は、一般会員40、学生会員4、非会員4の合計48名（含：オンライン3名）。

3. 庶務報告（上山庶務理事）

- 1) 会員異動（2024年6月15日
~2025年6月20日まで）
 - ・新入会員9名・退会会員8名の計1名増。
 - 6月21日現在の会員数は118名。
- 2) 学会奨励金
 - ・応募0件
- 3) 2024年度理事会開催
 - ・計5回（含：臨時2回）およびメールによる持ち回り理事会を複数回
- 4) 学会ニュースの発行：計4号
 - ・計4号（140~43号）発行。

4. 研究奨励金制度の変更について（高田会長）

- ・研究奨励金制度のあり方について、次期理事会で検討してほしい旨、報告された。

5. 役員選挙結果について（大國選挙管理委員長）

- ・2025年5月14日に開票作業を行い新役員が決定した。

6. 次期理事会について（品川次期会長）

会長：品川ひろみ

編集委員会：野崎剛毅（委員長）

高島裕美

研究活動委員会：奴久妻駿介（委員長）

金昌震、平沢和司

庶務担当理事：遠山景広

会計担当理事：佐々木千夏

監事：大國充彦・小内純子

（敬称略。新役員の任期は大会翌日より2年後の大会当日まで）

7. 次回大会の開催校（高田会長）

札幌学院大学（新札幌キャンパスを予定）

実行委員長：大國充彦会員

実行委員：高田洋会員

8. 「研究生」の扱いについて（高田会長）

「研究生」については学生・院生会員とみなすことが確認された。

議題

1. 2024年度決算報告・監査報告（駒川会計担当理事、会計監事）：資料1
提案の通り承認された。
2. 2025年度予算案（駒川会計担当理事）：資料2
提案の通り承認された。

第3回理事会について

日時：2025年6月21日（土）11:50~13:00

場所：札幌大谷大学 C111 教室

方法：対面

参加者（敬称略）

現理事会：高田・駒川・西浦・西脇・原・梶井
・工藤・上山（欠席者：角）

新理事会：品川・金・佐々木・遠山・高島

・野崎・平沢・奴久妻・大國・小内（純）

報告

上記、総会と同じ

編集委員会より（野崎編集委員長）

『現代社会学研究』39巻（2026年6月発行予定）の原稿募集について

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』39巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投

稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局 (hsa.sociology@gmail.com) に宛ててメールの添付書類として送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込〇〇.docx」(〇〇には申込者の氏名を入れる) としてください。申込の締切は、8 月 31 日 (日) まで (同日必着) とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で 2025 年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。

審査用原稿は「執筆要項」の指定に基づく A4 サイズ 16 枚以内の PDF ファイルとして作成し、10 月 31 日 (金) 必着で学会事務局宛てメールに添付してお送りください。その他の詳細については、学会ホームページに掲載されている最新の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』39 巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作 (会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則) で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報 (著者名、書名、発行年、版元名) を学会事務局 (hsa.sociology@gmail.com) までお寄せください。自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10 月 31 日 (金) 必着です。情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡いたします。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は 6,000 字程度、つかない場合は 3,000 字程度とします。締切は 10 月 31 日 (金) 必着で、学会事務局 (hsa.sociology@gmail.com) までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.docx」ないし「往来投稿申込〇〇.docx」(〇〇には申込者の氏名を入れる) としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合などには、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折にはどうかよろしくお願い申

上げます。

『現代社会学研究』の J-STAGE への掲載について

『現代社会学研究』の J-STAGE への掲載は、発行同年度の 8 月初めを目処に行っています。38 巻は 6 月 21 日付で既に公開済み。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006 年より研究奨励金を交付しています。下記により奨励研究を募集しますので、ぜひご応募ください。

1. 募集件数: 2 件 (1 件 5 万円)
2. 応募資格: 本会会員 (若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す)
3. 条件: 奨励金交付後 2 年以内の本学会大会での研究発表、および 2 年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法: まず「研究奨励金申請書」を学会ホームページ (「学会概要」>「研究奨励金」>「研究奨励金申請書」) からダウンロードするか、学会事務局 (hsa.sociology@gmail.com) 宛てにメールでご請求ください。ついで「研究奨励金申請書」に下記を記入し、学会事務局までメールで提出してください。その際、推薦者への確認を兼ねて、推薦会員の E-mail アドレスを CC に入れて送信してください。①研究テーマ、②応募者の氏名・所属と身分・TEL・E-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等 (具体的に)、④研究の方法と予想される成果 (具体的に)、⑤推薦会員の氏名・所属と身分・E-mail アドレス
5. 提出期限: 2025 年 10 月 31 日 (金) 必着
6. 提出先・問い合わせ先: 学会事務局 (庶務理事)

会費の納入について

2025 年度会費または未納分会費について、すみやかに振り込み手続きをお願いします。

郵便振替用紙 [郵便振替口座 02760-3-3085]

年会費 一般会員 6,000 円

学生・院生会員 4,000 円

5 年間滞納されると、自然退会の扱いとなります。ご注意ください。

会員情報の変更届について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なくメールで学会事務局 (hsa.sociology@gmail.com) までお知らせください。その際、E-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。ご協力をお願いいたします。